



白川 静「字統」(平凡社)より



2022年9月16日(金)

時間：開演18:30(開場17:45)

会場：🌸 **ほろいち文化ホール ウッドワンさくらびあ**  
【大ホール】

住所：広島県廿日市市下平良一丁目11-1

料金：全席自由席 未就学児入場不可  
一般(前売り) 3,000円 / (当日) 3,500円  
24歳以下(前売り) 2,000円 / (当日) 2,500円

※さくらびあ倶楽部会員2枚まで500円引

【チケット取扱い】

ウッドワンさくらびあ事務室 0829-20-0111

お問合せ：torifune\_ticket@hb.tp1.jp

発売日：6月10日(金)

主催：とりふね舞踏舎

共催：NPO法人Butohpie とりふね舞踏舎廿日市公演実行委員会  
(公財)廿日市市芸術文化振興事業団

制作：とりふね舞踏舎(岩木すす 三上太朗)

後援：廿日市市、廿日市市教育委員会、廿日市商工会議所、佐伯商工会  
青少年育成廿日市市民会議、廿日市市文化協会、廿日市市国際交流協会  
NPO法人廿日市市スポーツ協会、FMはつかいち76.1MHz、(一社)はつかいち観光協会  
京都精華大学、CEKAI、有限会社ケーブル・スタジオ

ゲスト 若林淳  
賛助出演 ヒスロム

他 岡崎悠里  
Ree  
宮田美雨  
竹内緑波  
坂本博美  
高橋美実  
内山日奈加  
鐵羅佑

出演：三上賀代  
小川あつ子  
沢田樹里  
平井紫乃  
五月女侑希  
ほし☆さぶろう  
正學居士

〈スタッフ〉

構成・演出：三上宥起夫

振付：Yukio Mikami Kayo

音楽：J・A・シーザー

美術監督：小林芳雄

照明：(有) アンビル

音響：新明就太

衣裳デザイン：北上亜矢

染色：辛島廣子

衣裳制作：湘南舞踏派

宣伝美術：NPO法人Butohpie

和ロゴ：山内清城

英ロゴ：榎本了彦

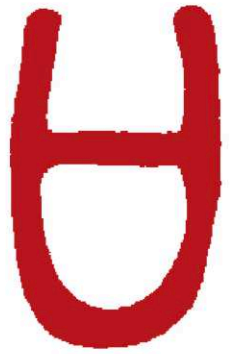
舞台監督：吉村聡浩

とりふね舞踏舎

# とりふね舞踏舎

制作拠点は神奈川県中郡大磯町。'91年、三上賀代によって解明された土方巽暗黒舞踏技法（お茶の水女子大学修士論文）をベースに、元・天井敷メンバーで作家・三上宥起夫によって神奈川県茅ヶ崎市に創立。旗揚げ公演『献花』（'92）。傘下に一般市民からなる舞踏集団「湘南舞踏派」（関東）「平安舞踏派」（関西）に組織。露、仏、伊、英、西、希など海外公演。ニューヨークタイムズ紙はじめ各国新聞にて絶賛。アビニョン祭、エジンバラ祭、スポーレット祭、'99年にはチェコ共和国（世界民族音楽祭）に特別招待されプラハ城城内ホール「スペインの間」で公演、喝采を浴びる。'21年創立30周年を迎え記念公演を行う。九月中旬より、KAAT神奈川芸術劇場と神奈川県庁との共同企画〈身体の源流から舞踏へ〉（仮称）がスタートする。

●<https://artsandculture.google.com/partner/torifune-butoh-sha> ● [Email] torifunebutohsha@hb.tp1.jp



- sai -

白川静「字統」（平凡社）より



## 【三上賀代】(主宰)

徳島県生。舞踏家、舞踏研究家。舞踏創始者・土方巽、野口体操創始者・野口三千三に師事。お茶の水女子大学国語国文科卒。同大修士・博士課程修了、学術博士。現・京都精華大学名誉教授。土方巽の、弟子以外は何人も立ち入ることを許さなかった稽古の現場で採集した'稽古ノート'を元に書いた修士論文を『器としての身体—土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ』（ANZ堂 '93）として出版、世界の舞踏研究の先駆けとなる。'15年、同名タイトルの『増補改訂』（博士論文、春風社）出版、同版が'16年に英国Ozaru Booksより"The Body as a Vessel"を英訳出版。優美さの中に狂気を秘めた舞踏家として多くのファンを獲得している。とりふね舞踏舎の全公演の主演を務める。他にソロ活動も積極的に展開している。



## 【若林淳】ゲスト

大駱駝艦出身の舞踏家。同艦所属のまま'93とりふね舞踏舎の海外公演『献花』に参加。以来、仏・露・米・伊・英、中欧公演に帯同、とりふね初期の国内外の公演活動を支える。初演『燦・月譚』の助演者に抜擢、身体の柔軟性、またデモンストラティブな動きはミラノ公演において圧倒的存在感を示し驚嘆された。'07年フリーになってからは舞台活動をつづけながら多くの映像、舞台等に出演、「渋さ知らズ」のダンサーとしても活躍。

## 【hyslom (ヒスロム)】賛助出演

'09年創立。加藤至、星野文紀、吉田祐からなるアーティストグループ。国内外で活動を展開。身体を用いての土地、建造物などを素材とする各地での実践活動は、遊びを体験化するという試みであり、創立当初より脚光、劇団維新派の松本雄吉は、その活動を「フィールドプレイ」と評した。映画、展覧会、パフォーマンス、さらにはhyslom結成以前の学生時代からとりふね舞踏舎の公演に参加するなど、活動範囲も広くジャンルを問わない。'18年、京都市芸術文化特別奨励賞受賞。主な展覧会として「ヒスロム 仮説するヒト」（せんだいメディアテーク、'18）、[itte kaette - Back and Forth]（ポーランド '19）。映画監督作品に、「シティII」（'20）、「美整物 輝かせる時間の黄金」（'21）、パフォーマンス作品に京都市芸術センターでの「KAC Performing Arts Program2018/Contemporary Dance『シティII』」（'19）がある。'20年からヒスロム「現場サテライト」として広島市現代美術館に定期的に通い、新たなプロジェクトを推進中である。



【作品・SAI-サイ】初演、東京・日暮里d-倉庫（'12）。本作品『SAI』は、未曾有の東日本大震災の圧倒的エネルギーから着想、戦後日本の復興の歩みと重ね合わせた。いかなる災厄をも人類は乗り越えてきたのであり、コロナ禍、ウクライナの戦火、混沌とした世界の現状にあっても「どんな最悪化にあっても踊るべき人は踊り、歌うべき人は歌うべき」とした。「極寒の下北半島の放牧馬“寒立馬”、恐山やその周辺の霊性が強く感じられた。墓が庭やあぜ道にあり、といった印象、そこにある行まい、祈りの形象……とりふね舞踏舎の最高作!」（比較舞踊学会会長・森下はるみ）との評がある。KAAT神奈川劇場（'14）、座・高円寺（'16）、京都・元立誠小学校（同年）等で国内再演。'15年のイタリア・ミラノトリエンナーレ美術館内の"Teatro d'ell Arte"での公演時には、終演後も観客が場内に長く留まるという珍事が出来、現地劇場関係者を驚かせた。

## 【国内外の批評】

- とりふね舞踏舎の計算された緻密な構成は、ブトー作品の憑依的無為のおどしではなく、見せる作品に仕上がっているところが、他と一線を画している。（日下史郎「新ダンスの窓」'12）
- ここには大変ふくらみのある公理が隠されている。見慣れているものに見入ると、予期しないものが見え、単純なものに見入ると、複雑なものが見え、小さなものに見入ると、大きなものが見えるというこの〈芸術の黄金の公式〉（ロシア・「タリベルミ紙」'94）
- 終わりに至るまで、カヨ・ミカミは確かに非常に強く激情と救済という感覚を創出する。あまねく部分に鮮烈なイメージがあった。（アメリカ・（New York Times紙）'94）
- ポルヘスがエル・アレフで獲得したのと同じ方法（有限の言葉の内に存在する無限性を表現する）で、賀代は本質を暴くのに成功している。（スペイン「EL CORREO紙」'96）



小川あつ子



沢田樹里



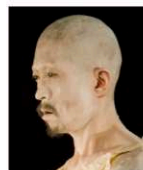
平井紫乃



五月女侑希



ほし☆さぶろう



正學居士



鐵羅佑



高橋実美



坂本博美



竹内緑波



宮田美雨



Ree



岡崎悠里



内山日奈加  
演劇実験室◎万有引力所属



吉田祐



星野文紀



加藤至

hyslom/ヒスロム

## とりふね舞踏舎『SAI-サイ』廿日市公演 出演者募集

廿日市市にてワークショップを行い、出演者を選抜します。ワークショップは8月末開催予定です。経験の有無・老若は問いません。日時等の詳細はウッドワンさくらびあ事務室(0829-20-0111)まで。

# さくらびあ文化ホール ウッドワン さくらびあ

(9:00~19:00 休館日:月曜日 ※祝日の場合は翌平日)

住所:〒738-0023 広島県廿日市市下平良一丁目11-1 電話:0829-20-0111

<https://www.hatsukaichi-csa.net/sakurapia/>



三上賀代著

「器としての身体-土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ」春風社  
『The Body as a Vessel』英語版 Ozaru Books (UK)